

新会長あいさつ

新体制へのご協力ご支援をよろしく願ひます! 会長 菊池敏博



1月29日(日)スーパードライ梅田において3年ぶりに総会・懇親会を開催しました。この総会で2023～2024年役員と2023年度事業計画などを決定しました。新体制へのご協力ご支援をよろしく願ひます。

関西岩手県人会は「会員相互の親睦をはかり、あわせて岩手県の隆昌発展に寄与すること」を目的とし、1956年に「関西岩手郷友会」を設立。1991年に『関西岩手県人会』と改め、今年で創設68年になります。

毎年1月下旬に大阪・梅田で開催する総会・新春懇親会、4月初めに京都岩手県人会と京都市内で開催する「合同お花見会」、7月に近畿青森県人会・近畿秋田県人会と大阪・梅田で開催する「合同納涼祭」など、京都岩手県人会をはじめ近畿青森県人会・近畿秋田県人会とも親睦・交流をすすめています。

また、「関西宮沢賢治の会」が毎年9月21日に、比叡山延暦

寺で「賢治忌法要と記念講演」を行っています。さらに「関西アテルイ・モレの会」が毎年11月第2土曜日に京都・清水寺で法要と交流会を行っており、関西地区の皆さんとの親睦・交流を促進しています。

関西岩手県人会は、事務局を青森・岩手・秋田の『北東北三県合同事務所』の会議室(大阪駅前第一ビル9階)に置いており、事務局員が毎週水曜日午前中に出勤しています。さらに、近畿青森県人会、近畿秋田県人会や東北各県や各県人会との連携や交流をすすめやすい環境にあります。岩手に関心のある方の来訪をお待ちしています。

2011年3月11日発生した東日本大震災は、甚大な被害をもたらしました。関西各府県・市から復旧・復興のために、職員を派遣など多大なご支援をいただきました。関西岩手県人会は、関西宮城県人会・関西福島県人会と連携して発生直後から2019年まで街頭募金活動などを行いました。関西の市民の皆さんから多くのご支援を賜り、多額の募金を復興基金に充てることができました。

岩手県は、県として日本一の大きな面積を持ち、豊かな自然に恵まれ、歴史的文化遺産も点在しています。何よりも人情の豊かさを実感いただいていると思います。今年1月、ニューヨーク・タイムズ紙(電子版)「2023年に行くべきところ52カ所」に盛岡市が選ばれ、外国人記者も認めると話題になりました。また3月にはWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)で日本・侍ジャパンが優勝し、奥州市出身の大谷翔平選手、陸前高田市出身の佐々木朗希選手の大活躍により岩手県への注目が高まっています。岩手県にゆかりの方、関心のある方の参加をお待ちしています。

2023年4月

東日本大震災13回忌法要

震災を忘れず被災地に思いを馳せる 2023年3月11日(土)法善寺



3月11日大阪難波は寒さも和らぎ穏やかな天候に恵まれ、コロナ禍も沈静化した土曜日とあって法善寺界限は観光客で賑わい、客が長い列をなすお店も多かった。法善寺境内にも参詣者が絶えず、水かけ不動尊に手を合わせるための列がみられた。

午後2時過ぎ、鎌田龍児顧問、菊池敏博会長など関西岩手県人会有志9名、佐藤勝会長など関西宮城県人会有志4名が金毘羅堂に顔をそろえた。

2時35分、副住職神田眞英師により読経が始まった。

2時46分、黙とう。

読経が流れる中、参列者が順番にお焼香をした。

午後3時過ぎ、副住職からお話があった。

「被災地には荒れてお墓が見つからないお寺もある。いろんな思いを持ちながら東北の方を向いて念仏あげる。生きていく間に念仏を唱えると功德があり、阿弥陀如来が迎えにきてくれる。3月11日は念仏を唱えましょう」と結ばれた。

午後3時30分 法要を終了しました。

関西岩手県人会と法善寺様との縁は、震災直後に街頭募金の場所を探していたところ法善寺住職様から「法善寺境内での募金活動」を申し出ていただき、関西宮城県人会と合同で街頭募金活動をしたことにあります。コロナ禍となって境内での募金活動を中止した間も、法要への参列という形でのお付き合いが続いています。(事務局K)

京都清水寺にて鹿踊りの奉納演舞

2月17日の京都は珍しく温暖・快晴の天候で、春の到来を思わせる一日でした。

9時半、岩谷堂高校鹿踊り部OB19名を乗せたマイクロバスが清水寺に入山。着替えもそこそこに、清水寺境内を学芸員坂井輝久先生の案内で見学、拝観。ご本尊の千手観音様に鹿踊り奉納祈願、その後関西在住の岩手県人会役員有志開催の歓迎昼食会に参加。13時、衣服を正装に改め、円通殿より南苑下の「阿豆流為・母禮之碑」まで行進。碑に「誉唄(ほめうた)」を奉納して西門下へ移動し、見に来てくれた岩手県人会員や多くの外国人観光客の前で「礼庭」等を演舞。一人15Kgの装束と道具は重かったが、清水寺西門下の大舞台で60分を踊り切り、充実感に満たされた。

この様子はユーチューブで公開されています。

<https://youtube/Uh4VvQ97dWg>

岩谷堂高校鹿踊り部OBの事務局の小原千春さんは語ります。「令和3(2021)年度の卒業生はコロナ禍により卒業旅行に行けなかった世代です。卒業旅行の代わりに清水寺での鹿踊り奉納を実現したいと、年代を問わず部の先輩方(10代～40代)へ呼びかけ、今回の実現となりました。今回の演舞奉納は、卒業生OB達で行う一度きり、最初で最後の演舞です。岩谷堂高校鹿踊り部は部員が減少し廃部になりそうなので、ここでOBの頑張りを見せたいのです(4月に新入部員を迎え、鹿踊り部は継続となったとのこと。悦ばしい便りです)



阿豆流為・母禮之碑の前で「誉唄」奉納演舞

この企画は1月末京都岩手県人会新年会の席上清水寺様から伝えられ、その場で京都高橋事務局長、奥州会千葉事務局長らと協議し『岩手県人会三団体の共同企画として歓迎昼食会を持つ。代表は岩谷堂高校OBで前京都都会会長の及川光夫氏にお願いし、会場と昼食時間の制限上、昼食会の参加案内は役員有志に止める』ことにしました。後日関西会菊地新事務局長にも説明・了解を得、関西の岩手県人会三団体共催、連絡調整はアテルイ・モレの会の和賀が行うことで形を整えました。

岩谷堂高校鹿踊り部OB

2023年2月17日(金)

歓迎昼食会では、岩谷堂高校OB演舞者9名(男性4、女性5)とスタッフ・運転手計19名と三県人会14名が参加。釜石出身君ヶ洞食堂のお弁当と特製おにぎりを共にし、和やかに歓談しました。



歓迎昼食会

演舞の観劇には岩手県人会員が多数集い、演舞のクライマックスでは掛け声と拍手。終わると万雷の拍手と、その後の記念撮影。おひねりを供する方もおられ、岩手の伝統芸能「鹿踊り」を十分に堪能しました。

岩手県には中世を起源とする鬼剣舞、虎舞、中野七頭舞等の郷土芸能が数多くあります。鹿踊りも江戸時代に伊達藩から伝わり、岩谷堂地区にはこの金津流石関鹿踊りが传承されています。12月京都コンサートホールで開催される全国高校生伝統文化フェスティバルにも、岩手県は毎年のように出場しています。和賀亮太郎(関西アテルイ・モレの会会長、前監事)



合同親睦お花見会開催!

桜満開の京都聖護院・御殿荘にて

2023年4月1日(土)



晴天に恵まれ満開の桜が咲く4月1日(土)、午前11時半より聖護院・御殿荘の2階別室において4年ぶりに京都岩手県人会・

関西奥州会との合同親睦お花見会を開き、会員の交流を深めました。

ふるさと京都会会長、京都山形県人会会長などのゲスト参加も含め総勢38名の参加となり、京都岩手県人会佐藤会長のご発声でお花見会がスタートしました。庭園の満開の桜を愛でながら、お酒やソフトドリンクも飲み放題で豪華な京料理を味わいました。時間が経つにつれてテーブル席のあちこちで人の輪ができ、和気あいあいとした楽しい時間が過ぎていきます。宴の最中に一人ずつ近況の紹介や唄など披露され、心地よいお花見会となりました。

関西岩手県人会菊池会長による締めの挨拶で楽しいひと時はお開きとなりました。その後、祇園に繰り出す有志もいました。

「お花見会ではお世話になりました。桜がきれいで楽しい会話、美味しい料理と3拍子そろった楽しい1日でした」会員から届いたメールです(京都岩手県人会HPより抜粋)。

(事務局N)

岩手県大阪事務所 着任ご挨拶

岩手県公式世界遺産キャラクター「ケロ平」もよろしく! 武藤健一次長

県南広域振興局経営企画部(奥州市)より岩手県大阪事務所次長としてまいりました武藤健一と申します。出身は花巻市(旧東和町)、花巻北高卒で入庁21年目になります。新卒は千葉県で就職しましたが(外に出てはじめて岩手の良さを感じ)岩手県にUターンしまして、県南管内の観光担当を中心に世界遺産平泉の観光振興、県庁観光課、大槌町の復興支援、県立胆沢病院など観光商工畑を主に歩んでまいりました。久しぶりの県外生活であり、まして西日本生活は初めてでとまどうこともあります。遠く離ればこそ、故郷岩手とのつながりのありがたさを感じる日々であり、関西岩手県人会の皆様の取組の大切さも改めて感じ入る次第です。

関西岩手県人会の人生の先輩の皆様、関西生活の先輩の皆様から勉強させていただきながら、故郷岩手と関西のさまざまな交流、そしてつながりづくりにお役に立てればと存じますし、2年目の渡邊菜実主任ともども岩手県大阪事務所、青森・



岩手ええもんショップをよろしく申し上げます。

※私と一緒に写真に写っているのは、前所属で担当していた岩手県公式世界遺産キャラクター「ケロ平」です。「わんこきょうだい」同様、御愛顧よろしく申し上げます。

岩手県大阪事務所 離任ご挨拶

さらに葛巻町が元気になるよう業務に取り組む! 主濱隆志課長



新庁舎4階「いらっしやい葛巻推進課」にて

関西岩手県人会会員の皆様、お元気でお過ごしのことと思います。岩手県葛巻町(くずまきまち)いらっしやい葛巻推進課課長主濱です。

今年3月までの岩手県大阪事務所在任中には、会員の皆様にお世話になりました。ありがとうございます。

大阪事務所において「お客様のために! 岩手のために!」との思いで観光や物産に関する事業や県人会活動等に取り組みながら、「お客様や岩手県関係者に岩手・東北を想っていただいている素晴らしい景色」を見ることができました。このことは私にとって心の財産となります。

葛巻町の役場は昨年11月から新庁舎で業務を始めており、まだ半年ほどの新しい建物で、「くずま〜る」という愛称で親しまれています。行政の各窓口・執務スペースに併せて多目的ホール「まき×まきホール」、図書室・サロン・勉強カフェ「まなベース」、自由休憩スペース「ふり〜じゅ」等の交流施設の併設や、金融機関や町の商工会が入居する等、総合拠点施設としての役割を有しています。

また、葛巻町では「くずまきテレビ」という町民向けのテ

レベ放送事業を行っており、「学校の入学式・卒業式」「季節ごとの各まつり」「消防団活動」等の行事や町内のいろいろな様子を各家庭で見ることができます。

私が所属する「いらっしやい葛巻推進課」は、商工観光係、移住定住係、広聴広報係の3係で業務を行っています。さらに葛巻町が元気になるよう取り組んでいきたいと思っております。

大阪事務所において勤務できたおかげで、滝沢市の実家で農作業や葛巻町で溪流釣り等アウトドアを楽しんだりしながら、岩手の良さを実感しています。

岩手に帰省される際は、「ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」の葛巻町にもいらして、どうぞ「くずまき高原牛乳」「くずまきワイン」「風力発電の高原」等をお楽し

みてください！

今後とも、よろしくお願いいたします。



素敵なデザインの新庁舎「くずま〜る」

岩手朝日テレビ大阪支社長 着任ご挨拶

14年ぶりの大阪で岩手観光大使として！

馬場俊一



岩手朝日テレビの馬場俊一と申します。この3月、約14年ぶりに大阪支社に着任し、この度は大阪支社長を務める事になりました。何卒よろしくお願い申し上げます。

簡単に自己紹介を致しますと、1971年盛岡生まれ、高校までは盛岡、大学で盛岡を離れましたが、岩手朝日テレビ入社と共に盛岡に戻りました。

弊社開局時の新卒入社なので27年目となりますが、県外勤務20年目、内17年弱を前任地の東京で過ごしてきました。

さて、岩手県に本社がある企業に勤めながら県外に長く住み、全国の企業様相手に仕事する環境は、厳しくもありますが、楽しい事もあります。楽しい事とは、「自分勝手に観光大使になって観光案内が出来る」事です。仕事で向き合っ

ている中で取引先や仲間より「岩手県に遊びに行きたいのだけど、行き先などプレゼンして…」と相談を受ける事、ワクワクします。相手より与えられた日程に対し、要望をヒアリングして、ルートを創造して、勝手に旅程を創る事、そして訪れた結果生まれる「相手を感じた思い出を聞く」事が、本当に楽しみでしかありません。今回の大阪生活でも、勝手に観光大使的な心を持ちながら、一人でも多くの方に岩手に興味を持って頂けるような仕事や向き合いが出来ればと考えております。

また、個人的な話とはなりますが、今回の大阪勤務に際しては、妻（盛岡生まれ）も一緒に参りました。1度目の大阪生活では、子育て中だった事や、2年半と短かった事で、関西圏の生活を満喫出来たとは言いきれません（少なくとも、妻は、満喫していないとの事）。今回の大阪生活では、週末の楽しみも交えつつ、過ごして参りたいと考えております。

関西岩手県人会の皆様とは、本当のアフターコロナの世の中で、直接お目に掛かる機会が出来るかと存じます。今後とも、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

全国高等学校女子硬式野球選抜大会

創部4年目で花巻東決勝進出 今後の県勢の活躍に期待

	花巻東	盛岡誠桜
2020年	4月 創部	
2021年	春(第22回)	不出場
	夏(第25回)	2回戦敗退 0-8 京都両洋
2022年	春(23)	2回戦敗退 0-10 開志学園(新潟)
	夏(26)	3回戦敗退 0-7 京都両洋
2023年	春(24)	準優勝 0-6 神戸弘陵
	夏(27)	丹波市(兵庫)で7/22(土)～開催予定 決勝は甲子園球場

尚、昨年4月、宮城・岩手に引続き青森・山形・福島でもチームが結成され東北女子硬式野球連盟が発足した。切磋琢磨する機会も増え、本県のみならず東北各校がレベルアップし仙台育英に続く“白河の関越え”も現実味を増してきた。

平野良夫(スポーツ部会)

高校女子硬式野球も人気が高まり、県内では花巻東・盛岡誠桜の2校が2020年・2021年と相次いで創部した。特に創部4年目の花巻東は今年3月、加須市(埼玉)で行われた選抜大会で全国制覇まであと一步の輝かしい戦績を挙げた。

同校は昨年秋のユース大会(2年生以下)でも準優勝しており、盛岡誠桜の全国大会初勝利と併せ、今夏の選手権大会(8月)が待ち遠しい。

一方マスコミで話題となっているのが佐々木秋羽選手(花東・2年)で、今秋のドラフト候補・佐々木麟太郎選手との兄・妹の動向に目が離せない。



6月に入った。いよいよ入梅の季節である。

この入梅という言葉、もちろん標準語でも使用されるのだが、本来は漢語なのだから堅い言葉である。大和ことばの「梅雨入り」が一般的であろう。

だが、初めて岩手に来たとき、この入梅という言葉が岩手の皆さんが頻りに使うのを聞いて驚いた。一般に、関西では、梅雨入りとか、梅雨明けというのである。

おまけに、「入梅に入る」とか「入梅明け」という表現もあって「馬から落馬する」と同じではないかと、最初はいぶかしく思ったものである。

けれど、こういう言葉の地域差というのは好きだ。いまや美しい日本語や、その土地独特の表現が平準化されてきた。こういう地方の表現法を大切にしたい。

さて、入梅となれば、ホヤがシーズンを迎える。

岩手を含む三陸海岸は、典型的なリアス地形である。その入り組んだ穏やかな湾で育ったホヤは、梅雨の水を吸って大きく、そして旨くなる。

同じころ、ヤマセの季節も始まる。夏のオホーツク海高気圧が張り出せば、三陸沖からの北東気流に乗って、深い霧が沿岸に這いこんでくる。

ヤマセが来襲すると、太陽が隠れ、わずか10分で気温が10

度下がることもある。これが長く続けば、内陸にも冷害とケガツ、すなわち飢饉の害が及ぶ。いわゆる「サムサノナツハオロオロ歩き」の世界である。

だが、リアスの海を撮影で訪れると、ヤマセの運ぶ湿気が三陸の海にほど近い森の樹木に降り注ぎ、穏やかな樹幹流となって樹々の根元をうるおす。なんとも美しい光景ではないか。

思うに、ヤマセを冷害と直結させる思考とは、稲作農耕文化以降のこと、すなわち弥生時代以降であろう。人間の都合で土地を囲い込んで、植えた作物を一定量以上収穫しようとする欲望は、自然環境を無視して発展してきたわけである。

いっぽう、ヤマセのもたらす天然のミストが森の樹木を潤すことで、ドングリなどの木の実が育つとすれば、縄文時代の狩猟採集生活においては、ヤマセは恵みだったはずである。

そして、森の養分がリアス地形の語源ともなっている川を伝って、ミネラルや養分を海に運ぶことで、ホヤやその他の魚介類の成長を促す。今や有名になった、畠山重篤氏の「森は海の恋人」という考え方だ。

毎年、この時期になると、そんなことを考えながら、森にそぼふる霧雨が育てたホヤの苦みを味わうのだ。



山田町の霞露ヶ岳の森 (2006年6月24日 多賀谷真吾撮影)

会員募集

- 親睦ゴルフの会員募集中!**
- ・会員数 16名(女性含む)
 - ・行事 桐友会 年2会(春・秋) 県人会会員外の参加も歓迎
北東会 年1会(秋) 東北5県(青森以外)と北海道
 - ・費用 行事ご案内時に会場と共にご連絡
 - ・開催日 原則として土日祝日を避けた平日

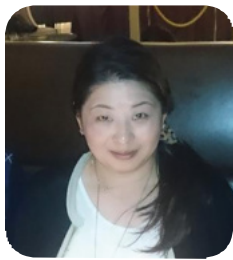
お問合せ

スポーツ部会担当 平野良夫
電話:080-1428-1218
メール:yoshio-h.1218@nifty.com

★★★ 自己紹介のコーナー ★★★

今年から新たに幹事になった方、そして新入会員の方々です

新幹事 都南村(現盛岡市)出身 我妻貴子さん



中、高を盛岡白百合学園に通い、宝塚に憧れ、関西で宝塚を観て暮らそうとバスガイドを15年しました。

今は大津市で障害者施設で働いて居ます。

役員になったものの、95歳の義母と暮らしていますので県人会にも出席できなかつたりとご迷惑を掛けるかもしれませんが宜しくお願い致します。

新会員 奥州市出身 大村泰治さん



父親が公務員で薬剤師のため現在の秋田県の羽後本荘の国立病院で昭和26年5月26日で誕生したが2か月後の7月に現在の県立北上病院の赴任に伴い小学校6年まで北上で育つ。その後水沢市に転勤になり水沢中学、水沢高校(二年生まで)5年間生活。高校最後の一年間は父の転勤で釜石南高校で過ごす。東大闘争で受験がなかった影響をもちに受けて受験失敗。

東京で浪人後北海道大学に入学し翌年札幌冬季オリンピックで裏のサポートをしたが中学からドイツ語をかじっていたためドイツ語を勉強したいと思い1973-74年に当時の西ドイツに留学。帰国後は生物化学を専攻し1976年に大塚製薬の研究所に就職。研究は主に内分泌が中心であったがその後開発に勤務先がかわり2年間内地留学として大阪大学医学部生物化学講座に在籍。この時糖尿病のいい治療薬を助教授から提案を受けたが当時の大塚製薬ではその能力がなかったので武田で開発販売された。このことが残念な経験である。また、化学療法部に変わりがん免疫と感染症の担当になり日欧米の抗生物質の開発の責任者となり世界各国で学会発表並びに研究会を開催。あまりの多忙で寝言を英語で言っていたようである。抗生剤は18年ほど担当していたが厚生省に新薬製造申請後に遺伝子多型という新しい学問で解析する必要になり大阪大学薬学部臨床薬効評価学講座に在籍することになる。教授が大阪大学第三内科教授の東純一先生で免疫学の大家であり昔から交流があったため5年間在籍。

その後は岡山にあった林原生物化学研究所に8年間在籍後定年退職。現在は予防医学を中心に研究。また、QOL研究会のメンバーでコロナ前はコペンハーゲンで発表。

旅行と地理が好きなので特に欧州を中心に旅行できるときはするようにしています。

新会員 紫波町出身 弥富可奈子さん



岩手を出て45年、海外を含め7箇所の移動の末、奈良で居を定めることといたしました。関西は大好き、とはいうものの岩手の食や話題が懐かしく、岩手県人会を見つけて参加させていただきましたが、久しぶりに「底抜けに」嬉しい会となりました。

必ず日本酒徳利を持ってお酌に回るおじさま、お嬢様ながら実は酒豪、の岩手由縁のみなさまとの時間はとても楽しく、佐賀生まれの夫も岩手県人になったような溶け込みぶりでした。

私の紫波町の実家は50年来景色の変わらない土地ですが、実家から見える岩手山はとても美しく、あずまね山に沈む夕日はいつ見ても飽きない風景です。岩手県人会のみなさまと過ごす時間はその風景と重なります。

これからもどうぞよろしく願い申し上げます。

会員近況

合同お花見会返信ハガキ「近況欄」より

(敬称略・挨拶文省略)

植田細布子：岩手県民の誇り大谷・佐々木朗希君の活躍に元気をもらってます。

岡田公子：楽しいお写真もたくさんいただきうれしく思っております。参加したいのですが、足腰が弱ってしまっていて行けません。

小林潤子：一貫して被災地のお子さん達に心を寄せ、支援を続けています。十三回忌お参りに上がらせていただきました。副住職様のご法話も素晴らしかったです。風化させる事なく続けていきたいと思っております。お花見会は残念ながら欠席です。

小山綾子：元気に暮らしています。

島 信子：年々身体のほうがメンテナンスが必要なようで、病院に行く回数が増えて困ります。

松原志朗：おかげさまで元気に暮らしております。

編集後記

今年新たに幹事に就任した方や新入会員の方々の自己紹介コーナーを設けました。今回紹介できなかった方の記事を順次掲載していくつもりです。

しばらく最新データをアップしていなかった県人会のWebサイト(ホームページ)を更新しています。県人会のWebサイトは検討すべき課題がまだまだあります。より良いWebサイトにすべく広報部会を中心にプロジェクトチームを組んで検討を進めていきます。このサイトを見た方が岩手県や関西岩手県人会の活動に魅力を感じ、入会してみようと思うようなサイトにすることが理想ですね。(編集子N)